



パートナーシップを考える

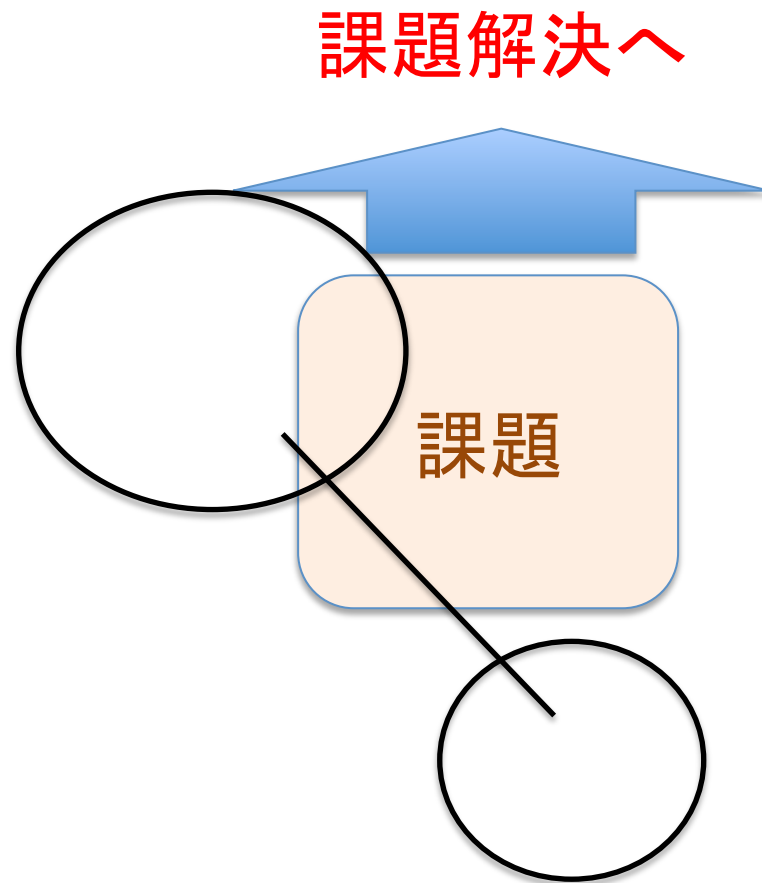
2016年10月13日(改訂版)

CSOネットワーク代表理事
日本NPOセンター常務理事

今田 克司

katsuji@csonj.org, kimata@jnpoc.ne.jp

社会課題解決の構想図の変遷(1)

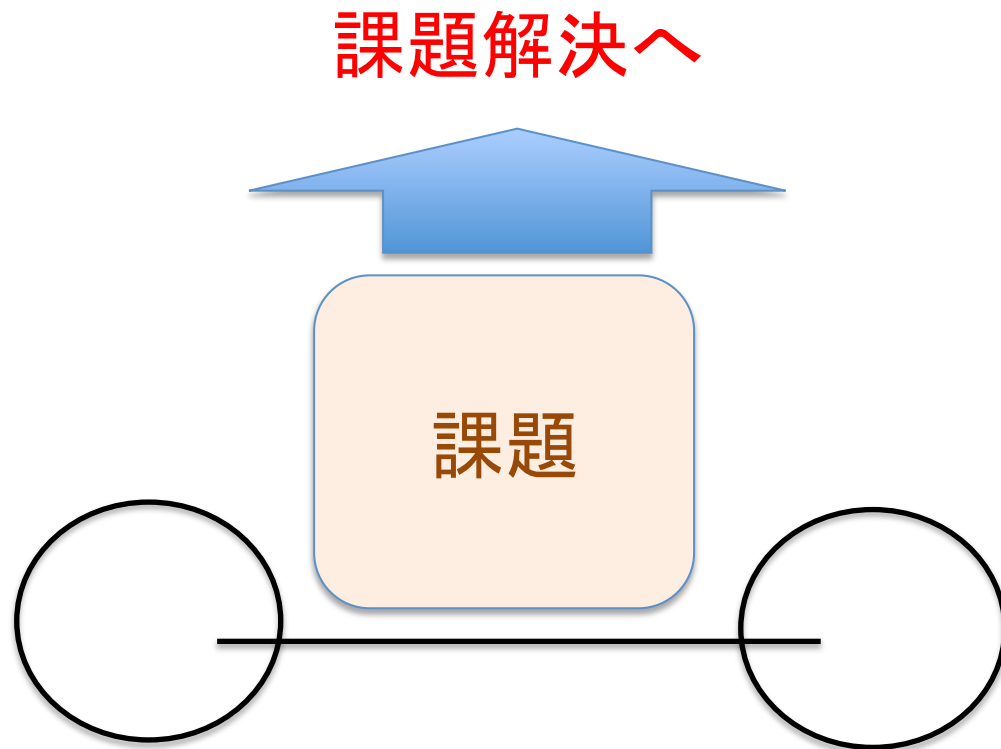


<キーワード・関係性>

- 行政責任
- 責任主体⇔

責任の追及・依存

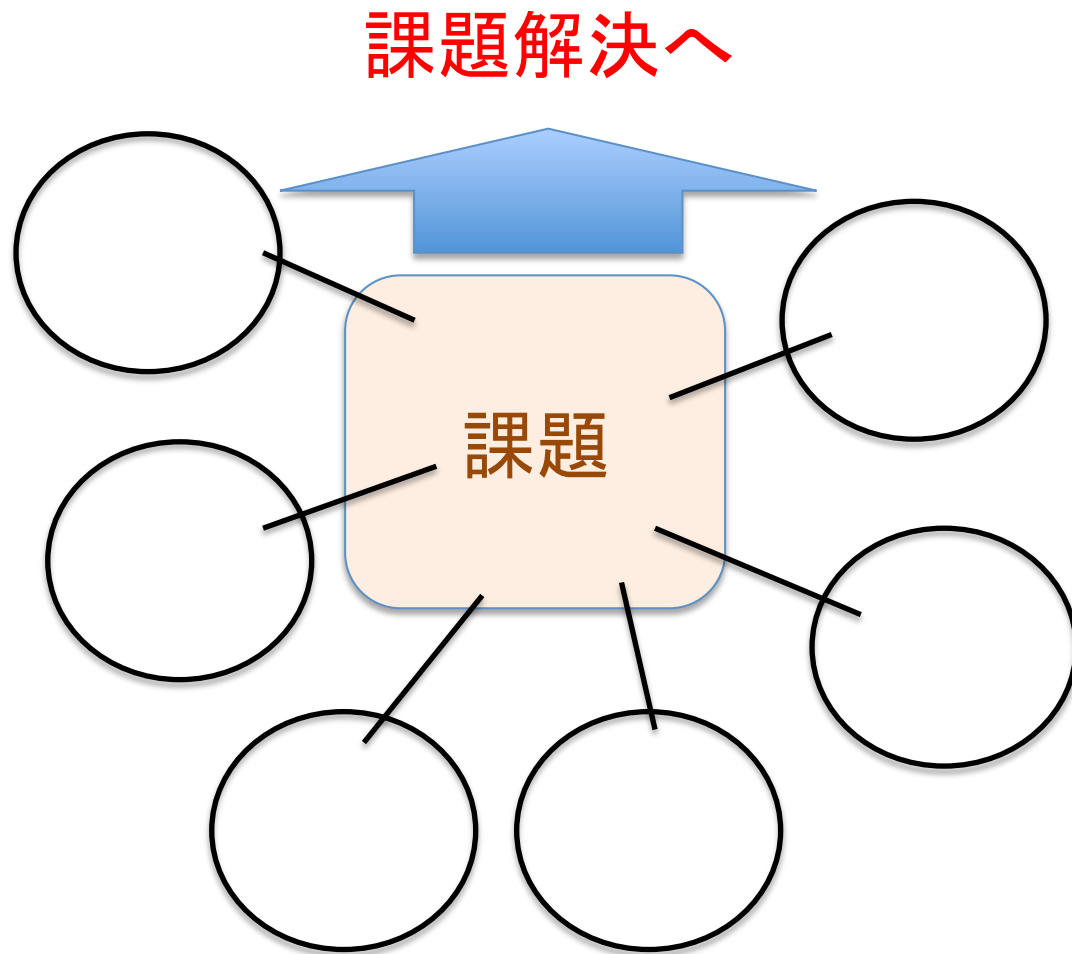
社会課題解決の構想図の変遷(2)



<キーワード・関係性>

- 協働
- 対等
- 自立
- 互いの特性、専門性、強みを生かす

社会課題解決の構想図の変遷(3)



<キーワード・関係性>

- マルチステークホルダー・パートナーシップ (MSP)
- SDGs ゴール17

これらの変遷を経て、いまという時代

時代認識	でも、ちょっと待てよ...
パートナーシップは課題解決の前提？	じつはパートナーシップは「あやうい」。 <ul style="list-style-type: none">• なぜならば、リソースは異なるアクターにひとしく配分されていないから。• 「対等な関係」のことばの裏にある権力構造の理解が必要
SDGsは、多様なアクターを巻き込む新しい時代のグローバルガバナンスを体現している？	SDGsはMDGsと同様に「努力目標」 <ul style="list-style-type: none">• 責任の所在が不明確になる。• MDGsの目標8。先進国のODA額をGNIの0.7%に⇒日米含め、果たされていないけれど「責任」問題になっていない。• 「ビジネスと人権に関する指導原則」においても「生ぬるい」という声も

GEOCへの期待

- パートナーシップの「あやうさ」を認識する。
- そのうえで、いびつな権力構造にメスを入れ、市民が真の意味で参加できるような社会環境の整備に尽力する。
 - ⇒「参加」に必要な情報が、パブリック・ドメインに共有されるように情報公開を進める。
 - ⇒市民の広い層の政策形成過程参加をサポートするNPO/NGOの力量形成を支援する。